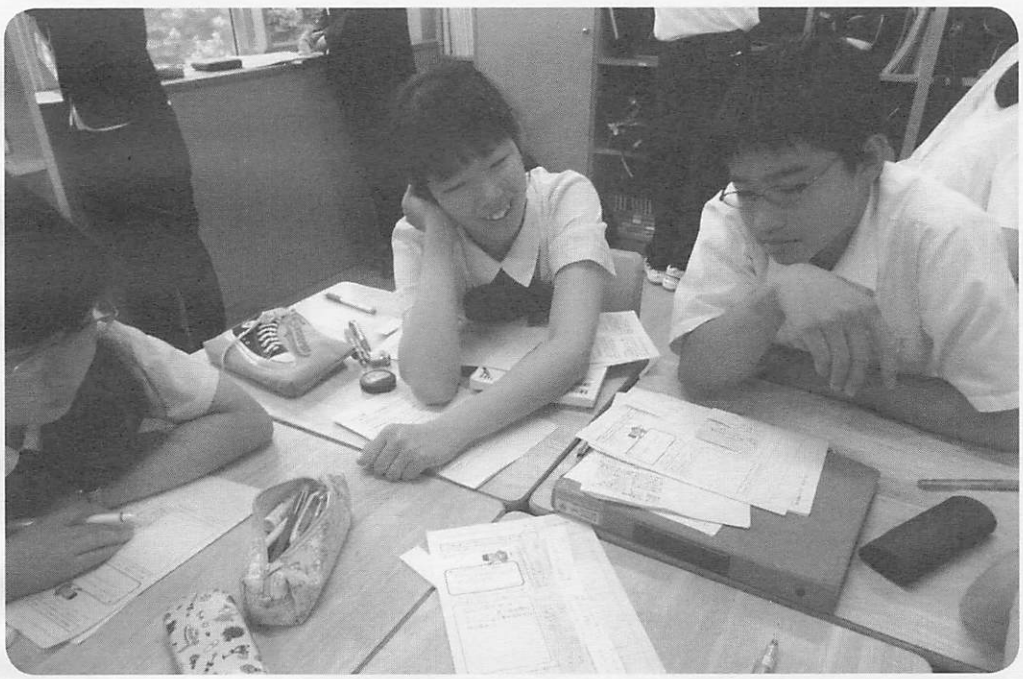
国語科

教科領域研究テーマ
【仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫】



国語科

仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫

実　践　者　竹縄　隆子，大上　航太，武田　香織
愛媛大学研究パートナー　三浦　和尚

第１章　はじめに

前年次の研究では，仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫を行うことが，持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす生徒を育てる上で不可欠であると考え，実践に取り組んできた。授業において，相互評価や交流など，小集団活動を適切に取り入れながら指導の工夫を行った結果，自分の経験・価値観・感性などを基に言葉を用いて表現する力（自立の力）と，多様な価値観を認め，互いの個性を尊重したり他と協調しながら進んで行動したりする力（共生の力）を，生徒の自尊感情を高めながら育てていった。

昨年度の実践の有効性の確認に基づいて，本年度は，単元を通して目的意識・課題意識を継続して持たせるとともに，協同の学びの場としての話合い活動，交流活動をより工夫することで，仲間とのよりよい関係の中で互いを認め合いながら表現力を高められるようにしたいと考え，本研究テーマを設定した。

第２章　研究の実際

研究（その１）

他者との交流を通して「書く」活動を取り入れた国語科学習の展開

（実践者）竹縄　隆子

１　研究テーマ設定の理由

「持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす」ためには，仲間との関わり合いの中で，互いに学び合えたという実感が必要である。また，「すべての生徒が伸びる学び」とは仲間との関わり合いの中で，互いに成長できた（互いに伝え合い，思考が深まった）という実感を伴うものだと考える。つまり，単に互いの意見を出し合うだけでなく，意見を出し合ったあとにもう一度自分の考えをまとめ直す活動を行うことが表現力を高めることにつながると考える。そこで，交流活動を通して「書く」意欲を持たせ，表現力を高めたい。

これらのことが，望ましい生徒像に掲げた「豊かな感性や表現力と他者を尊重する心を持ち，積極的に自己を開いて他者に働きかける」ことにつながると考え，本研究テーマを設定した。

２　研究の内容と方法

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

(2)　仲間との関わり合いの中で，表現力を高める学習指導の工夫

ア　協同の学びの場の充実と表現力を高める学習指導の工夫

多様な考えを持つ生徒同士が「互いに学び合えた」という実感を持つような「関わり合い」をさせるために，互いの意見を出させたあと，それらの意見をどのように集約させ，各個人の考えを深めさせるか（考えが深まったと実感させるか）を研究する。

そのために，互いの意見を出しやすい場を設定し，「自分と違う意見」に注目させたい。意見を交流させるためにどのように聞くか，交流の目的を明確にした聞き方を工夫する。そうすることで，他者の意見も自分の考えを深めていく中に取り入れるような学習の成立を目指す。

イ　ワークシート等の分析

互いに学び合い，思考が深まっていく過程が分かるワークシートの工夫を行う。

以上のような，指導の工夫をもとに，その有効性を考察するとともに，そこで得た成果 や課題をさらに授業実践に生かしていくこととする。

3　研究の実際

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

担当学級の生徒（40名）は，本を読むことが好きな生徒が多く，授業に対しても意欲的に取り組んでいる。国語の学習に関するアンケートを行ったところ，物語文の学習が好きな生徒は38名だった。物語文を読みながらいろいろなことを想像することが好きな生徒は34名と多い。また，友だちと意見や感想を交流することが好きな生徒は27名であるが，友だちと意見や感想を交流することにより，自分の考えが深まると感じている生徒は38名と多い。意見を交流することにより，自分の考えを深めることはできるが，自分の意見をどのように伝えればよいか自信が持てない生徒もいる。さらに，授業の様子を見ていると自分の考えを伝えることはできているが，伝えただけになっている場合も多い。そこで，今回は交流活動とはどういったものかを感じ取らせるために，必ず意見が言える状況を作るとともに，どういった視点を持って他者の意見を聞けばよいかを示す。また，自分の考えを文章にまとめることが苦手な生徒は20名いる。意見を交流することにより，自分の考えを深めさせ，書きたいという気持ちにつなげたい。

(2)　単元構想

本単元では，話のあらすじと作者や登場人物の思いを正確に読み取ることだけなく，様々な人生観に触れることで自分の考えを豊かにすることをねらいとしている。

本単元で扱う「空中ブランコ乗りのキキ」は，登場人物同士のからみや主人公の心の葛藤が描かれた作品である。また，登場人物の相反する考え方を通して様々な人生観も描かれており，自分の生き方に目を向け始めるこの時期の教材としてふさわしいと考える。文章を深く読み味わい，物語を通して「自分の思い」や「自分の意見」を持たせるために，小集団で互いになぜそう言えるかといった根拠を考えさせながら意見を交流させ，それぞれの登場人物像や登場人物同士の関係性，キーワードとなる「白い大きな鳥」に託した作者の思いなどを根拠を持って読み取っていかせたい。そういった活動を通して，「互いに学び合えた」という実感を伴う「関わり合い」が可能となる。また，自分の思いや意見を書き，互いに読み合うことで表現力を高めることにもつながっていくと考える。

そこで，本単元「根拠を持って読み取ろう」を全６時間扱いとし，表１・表２のように単元目標，学習内容，評価規準，を考え，授業を実践した。

表１　単元「根拠を持って読み取ろう」の目標

観　　点	目　　標
関心・意欲・態度	物語の世界を想像したり作者の思いを考えたりしながら課題解決し，感性を磨き表現力や言語能力を高めようとする。
話すこと・聞くこと	話合いの話題や方向を捉えて的確に話したり，相手の発言を注意して聞いたりして，自分の考えをまとめることができる。

書くこと	作品の中に表れている表現を根拠にしながら，自分の意見をまとめることができる。
読むこと	物語の展開に即して登場人物の性格や関係，文脈中の語句の意味を正確に捉えることができる。

表２　単元「根拠を持って読み取ろう」の構想

学　習　内　容	◇　評　価　規　準　（観　点）	時間
根拠を持って読み取ろう ○学習内容と目標を確認する。 ○初発の感想や疑問点を書く。	◇学習内容を理解し，初発の感想や疑問点を持つ。（関心・意欲・態度）	1
○それぞれの人物像を捉え，登場人物同士の関係を考える。 ○「白い大きな鳥」の意味するものを考える。	◇作品の中に表れている表現を根拠にしながら，課題を解決しようとする。（関心・意欲・態度） ◇物語を読んで想像したり，考えたりしたことについての意見交換を行い，自分の考えを深める。（話すこと・聞くこと） ◇場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てる。（読むこと）	3
○キキの生き方について考える。	◇他者との交流を通して集めた情報について，さまざまな視点や立場から検討して，考えを深めている。（書くこと）	2

⑶　授業の実際（２／６時間）

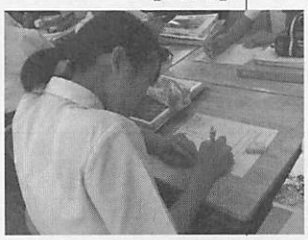
ア　ねらい

○交流活動を通して，文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分のものの見方や考え方を広げようとする。

○根拠を持って自分の考えをまとめ，他者に伝えることを意識して話すことができる。

イ　展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•主な生徒の反応	○指導の工夫◇評価（方法）
1　本時の学習内容を確認する。（一斉）	5	この物語を通して作者は何を伝えたかったのだろうか。	○登場人物同士の関係を考えさせるために，それぞれの人物像を確認した。
2　登場人物同士の関係を考える。（個人） **【協働】**	30 (5)	○それぞれの登場人物は互いのことをどう思っているか確認しよう。 •「おまえさんは，世界一のブランコ乗りさ」という言葉から団長さんはキキに期待し，信頼していると思う。 •「人気なんて落ちたって死にやしない」という言葉からロロは人気にこだわるキキの気持ちが理解できないと思う。 •「お待ち」と言ってキキから本心を聞き出したおばあさんはキキの唯一の理解者だ。	**○深く登場人物同士の関係を考えさせるために，まずは自分の担当の人物に関わることについての根拠となり得る表現を見つけさせた。** **【協働】**



担当の人物に関わることについて確認する様子

↓ （小集団１） ↓ （小集団２） **【協同】**  **意見を交流している様子**	(15)	○根拠を示しながら，登場人物同士の関係を互いに確認しよう。 （キキ⇔おばあさん） • おばあさんはキキを惑わす存在である。 • わざわざピピが三回宙返りに成功したことを教える必要があったのか。 • キキにとっておばあさんは願いを叶えてくれる存在。 （キキ⇔ロロ） • ロロは，無茶な四回宙返りはやめてほしい。 • キキは，見守ってほしいと思っている。	**○意見を交流し，自分の考えをまとめさせるために他者の意見を聞くときに「なぜだろう」「本当にそうかな」という視点を持って聞かせた。** **【協同】**
↓ （全体） **【協同】**	(10)	○それぞれの登場人物同士の関係をどう捉えたか発表しよう。 • キキの気持ちをおばあさんだけが分かってくれたのかな。 • ロロも団長さんもキキのことを大事に思っている。	◇根拠を持って登場人物同士の関係を確認し，他者に伝えるということを意識して話し合っている。 （観察・ワークシートの分析）
4　作者が「白い大きな鳥」に託した思いを考える。　（個人） ↓ （全体）	10	○「白い大きな鳥」は何を表しているのか根拠を示しながら考えよう。 • キキが空中ブランコを飛んでいる様子を，「鳥」や「白い」といった言葉で表現しているのでいなくなった（すべてを失った）キキを表していると思う。	○根拠を持って考えさせるために，作者が主人公であるキキを物語の中でどのように描いているのかに注目させた。 ◇根拠を持って「白い大きな鳥」が何を表しているかを伝え合い，考えを広げようとする。 （観察・ワークシートの分析）
5　本時のまとめと次時の確認をする。　（一斉）	5	○次の時間は今日読み取ったことを参考にしながら「キキの生き方」に共感できるかどうかを根拠を示しながら文章に書く。	

4　考察

(1)　授業研究の視点について

授業研究の視点	○根拠を持って考えさせることや意見を交流させるときに聞き方の視点を示すことは，表現力を高める手段として適切であったか。 ○それぞれに担当を持たせたことは，自己有用感を高め，伝え方を意識させるのに有効であったか。

研究授業を見ていただいた先生方の意見を以下に紹介する。

○根拠を持って考えさせることや意見を交流させるときに聞き方の視点を示すことは，表現力を高める手段として適切であったか。

○本時のねらいである「見方や考え方を広げようとする」こと及び，「他者への意識を持って話す」ことに対しては，有効であったと思うが，ねらいと表現力の高まりの関連が指導案の中では見えにくい。
○「なぜ？」「どうしてそう思うのか？」の問いは，生徒同士の学び合いが活発になると思う。生徒同士で「なぜ？」と言い合っていた班もあった。その根拠は本当かと議論したり，チェックできたりするようになってくると思う。
○「何ページに○○と書いてあるから」と根拠を意識して自分の考えを伝え合ったり，「根拠は？」と聞き返したり，「新しい視点だ！」と感心したりする姿が見られた。思わず拍手している生徒もいた。

○それぞれに担当を持たせたことは，自己有用感を高め，伝え方を意識させるのに有効であったか。

○担当があることで，自分たちが話し合ったことを分かりやすく伝えようと意識していたと思う。
○自分の役割が明らかになって「やらなければ」という思いになり，その結果が「役に立った」になれば自己有用感は高まると言える。そのための手段として伝え方が大事だが，うまく伝えるためのポイントを生徒に持たせる必要がある。
○小集団２に戻ったとき，自分の思いを伝えたくてうずうずしている様子，と同時にそれに対する意見を求めたい様子だったので，自分の学習成果に自信がある状態だったと認められる。小集団１での視点を持たせての質問タイムがきいていたのか，伝えるべき内容をうまくまとめ，相手のニーズに合わせた伝え方ができていたように見えた。

(2) ワークシートによる生徒の実態と課題

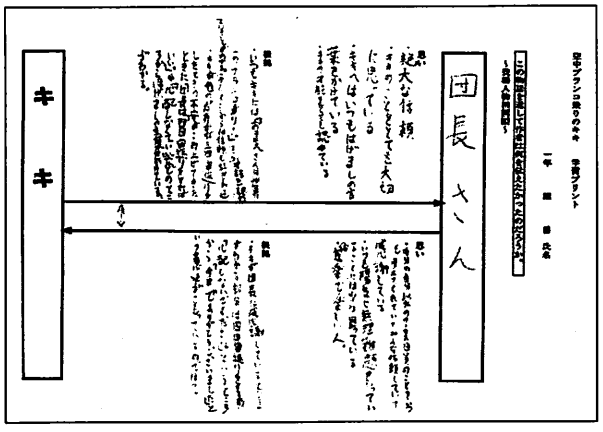


図１　小集団１のワークシート（キキ⇔団長さん）

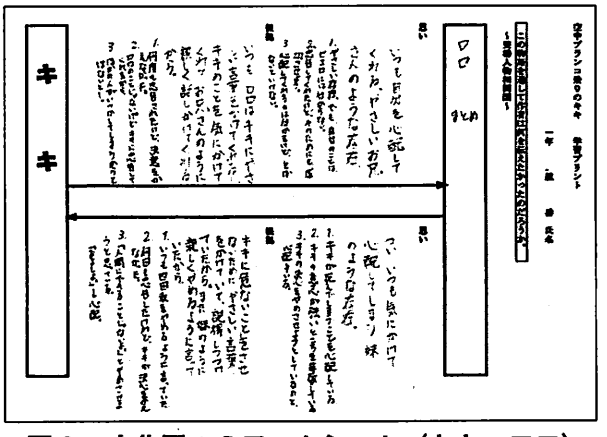


図２　小集団１のワークシート（キキ⇔ロロ）

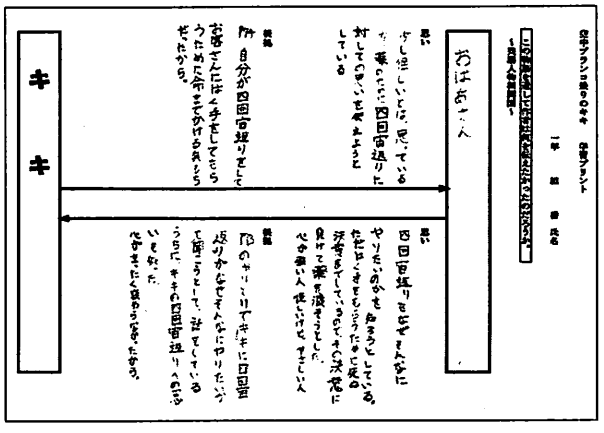


図３　小集団１のワークシート（キキ⇔おばあさん）

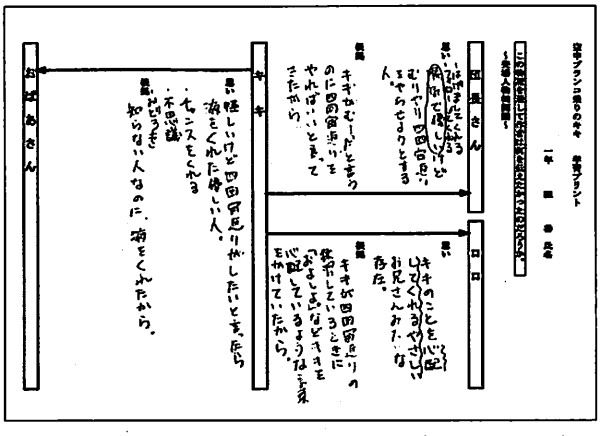


図４　小集団１のワークシート（キキ⇒三人）

担当の登場人物を決め，その人物とキキは互いのことをどのように思っているのかを根拠を持って考えさせた。キキの担当者には，キキはそれぞれのことをどのように思っているのかを根拠を持って考えさせた。「なぜ？」「本当に？」「私とは違う」「なるほど」「私も同じ」という視点を持って小集団１（同じ登場人物の担当者の集まり）で，他者の意見を聞かせ，質問等をさせた。他者の意見を聞いて「そういった考えもあるな」と思ったことについては，ワークシートに青ペンで記入させた。この後，小集団２（キキ・団長さん・ロロ・おばあさんの担当者がいる四人班）に戻って意見交換をするということもあり，活発な話合い活動となった。

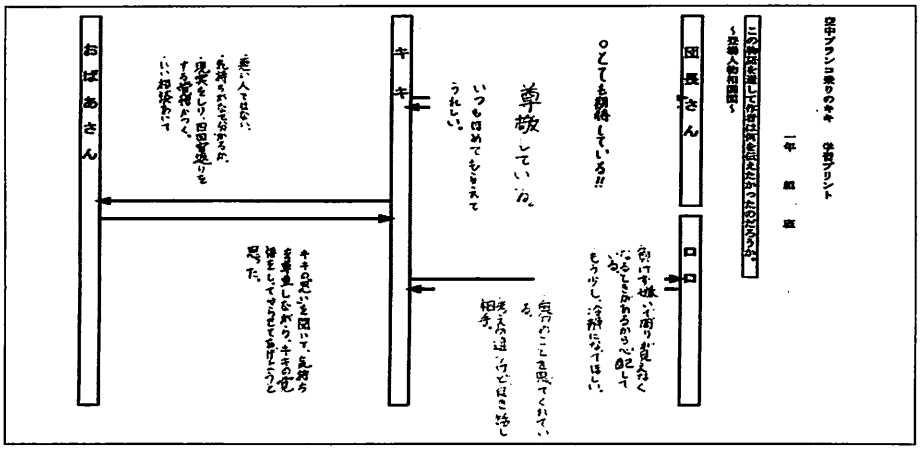


図５　小集団２のワークシート

色分けした付箋紙に，それぞれの担当者がキキに対する他の登場人物の思いや他の登場人物に対するキキの思いを書いて，登場人物相関図に貼り，意見交換を行った。小集団１で，話合いができていたこともあり，自信を持って意見交換ができている様子が見受けられた。また，これらの活動の後に，「根拠を示しながら自分の意見を述べた」「『なぜ？』『本当に？』『私とは違う』という視点を持って友だちの意見を聞き，質問することができた」「『なるほど』『私と同じ』という視点を持って友だちの意見を聞き，伝えることができた」という項目で振り返りをさせたが，すべての項目で全員の生徒が「できた」あるいは「どちらかというとできた」と答えた。このことからも，担当を決めることや意見交換のときに聞く視点を持たせることは自己有用感を持たせるのに有効だと言える。

この話合い活動の後，最後に出てくる「白い大きな鳥」は，何を表しているかを根拠を持って考えさせ文章で書かせた。その文章を以下に紹介する。

○白い鳥はキキだと思います。サーカスの大テントのてっぺんに止まっていると書いているのが四回宙返りをして一番を取った感じを表しているからです。さらに，サーカスの人々に見つかってはいけないと思い，海の方へ行ったのではないかと思います。キキがいないことに誰も気付かなかったのは，キキが鳥に変わっていたからだと思います。青い水は願いをかなえる水だったのだと思います。その白い鳥が悲しそうに鳴いたのはやはり空中ブランコができなくなるのが悲しかったからだと思います。

○白い大きな鳥はキキではないと思います。この話では，キキのことを「大きな白い鳥」や「まるで鳥のよう」と表現するなど「鳥」というキーワードがたくさん用いられています。ここからキキのことを「鳥」という強い印象がみんなに根付いているのがわかります。キキが突然いなくなったことでみんなは信じられない気持ちだったと思います。その気持ちから，そのテントにいた鳥を見ただけでキキだと思い込んでしまった人がいたんだと思います。人々はみんなキキがいなくなったことによって信じられないくらいのショックにおちいり，その事実を認めたくない人もいたと思います。その人たちがキキに対しての尊敬の意を示すためにそういうことを言ったのかもしれません。そして，なぜその鳥が悲しそうに見えたのか。それは，みんなの気持ちがキキへの同情の気持ちでいっぱいだったからだと思います。

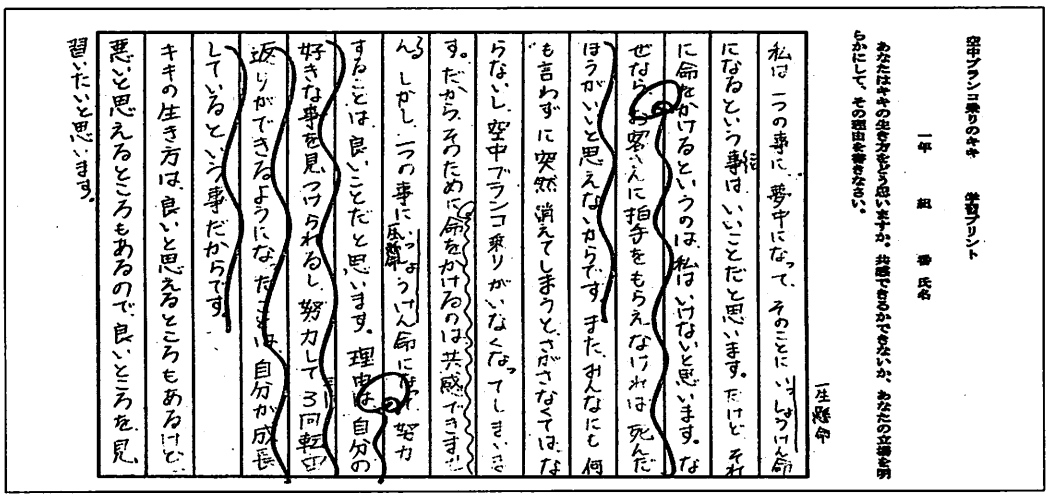
「白い大きな鳥」については，キキだとする生徒が多かったがキキではないと考える生徒もいた。これを書かせる前に行った話合い活動でも「根拠を持って」意見を述べることに重点を置き，キキの思いやをキキを取り巻く人々の思いを考えさせていたこともあり，根拠を持って「白い大きな鳥」について考え，登場人物等の思いに触れながら文章が書けていた。

この授業の最後にキキの生き方に共感できるかどうか，自分の立場を明らかにして，理由を述べて文章を書かせた。その文章を以下に紹介する。

○死よりも人気の方が大事というところには共感できません。死んでしまったら，人気も意味がないと思ったし，怖いからです。ロロや団長さんが止めたのに四回宙返りをするのも共感できません。もっと意見を素直に聞き入れたらよいと思ったからです。でも，自分の大好きな空中ブランコでみんなを喜ばせているところは共感できました。ピピが三回宙返りをしたことに左右されすぎて，冷静になれていないところも共感できないと感じました。みんなを喜ばせるために，熱心に練習し成功させようとしているところはすごく共感できました。

○キキの考え方はとてもすごいと思いますが，ぼくはあそこまではしません。その理由は，おばあさんは他人で見たこともない人なのに，その人にもらったあやしい薬を飲めるわけがないと考えたからです。でも，キキが迷いながらも，命をかけてまでとは言いませんが，挑戦しようとするのは共感というか，同じ考え方だと思いました。そして，団長さんの応援の仕方がキキを何か不安な気持ちにさせたのではないのかと思いました。

これを書かせるときに生徒から，「共感できるところもできないところも両方ある」という声が挙がった。そこで，両方ある場合はどこが共感できてどこが共感できないか，どちらも書いてかまわないと指示した。共感できないと書いた生徒が多かったが，共感できる部分を取り上げて書く生徒もいた。こちらの文章でもキキの思いだけではなく，キキを取り巻く人々の思いに触れながら，自分がキキの立場ならどうしただろうかということを考えながら文章を書いている生徒が多かった。また，全員の生徒がキキの生き方に共感できるかどうか，自分の立場を明らかにし，理由を述べながら文章を書くことができた。これは，小集団活動（他者との交流）を通して，自分の思いをしっかりと持つことができていたからだと考える。


空中ブランコ乗りのキキ　学習プリント

一年　組　番　氏名

あなたはキキの生き方をどう思いますか。共感できるかできないか，あなたの立場を明らかにして，その理由を書きなさい。

一生懸命

私は一つの事に夢中になって，そのことにいっしょうけん命になるという事は，いいことだと思います。だけど，それに命をかけるというのは，私はいけないと思います。なぜならお客さんに拍手をもらえなければ死んだほうがいいと思えないからです。また，おんなにも何も言わずに突然消えてしまうとざんこくなってしまうし，空中ブランコ乗りがいなくなってしまうからです。だから，そのために命をかけるのは共感できません。しかし，一つの事に夢中になっていっしょうけん命に努力することは，良いことだと思います。理由は，自分の好きな事を見つけられるし，努力して3回転宙返りができるようになったら，自分が成長しているという事だからです。

キキの生き方は，良いと思えるところもあるけど，悪いと思えるところもあるので，良いところを見習いたいと思います。

図６　キキの生き方について意見を述べたワークシート

また図６のように，書いた意見についてはお互いに読み合い，気になる表記や分かりにくい表現については青ペンで印を付けさせ，「理由がしっかり書けているところ」や「なるほどと思ったところ」には青ペンで波線を引かせ○を付けさせた。このような相互評価を行わせることにより，どのように書けば自分の思いを相手に伝えることができるかを意識させることができ，表現を高めることにつながると考える。

研究（その2）

一人一人の書く力を高める指導の工夫
―交流活動を取り入れた学習を通して―

（実践者）大上　航太

1　研究テーマ設定の理由

「持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす」生徒を育成するためには，自分の経験･価値観･感性などを言葉を用いて表現する力（自立の力）と，多様な価値観を認め，互いの個性を尊重したり他と協調しながら進んで行動したりする力（共生の力）を，仲間との関わり合いの中で自らの自尊感情を高めながら育てていくことが必要である。

昨年度の取組において，創作の過程において交流活動は極めて効果的であり，小集団による評価的な活動を取り入れることが有効であることが分かった。特に，ワークシートを活用して，お互いが「良いところ」「気に入った理由」を書かせ残る形にして交流させる方法には一定の効果が見られた。しかし，更に質の高い交流活動にするためには「関わる」だけでなく「関わり合う」ことが必要であり，そのためには，自分の意見を伝える活動だけでは不十分で，小集団の中で良いところやアドバイスをお互いが受け入れながら，実際に自分の表現に生かしていく活動にすることが大事であることが分かった。

以上のことを踏まえ，目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を活かす協同の場やお互いの良さを認め合いながら他者と交流できる場を設定し，より良い表現にしていこうとする意欲を持たせれば，学習者一人一人の書く力を高めることができるのではないかと考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容と方法

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

(2)　協同の学び合いの中で表現力を高める学習指導の工夫

目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を活かすことができるように，単元を通して持続できる課題意識を持たせるとともに，言語活動を単元の中で効果的に位置付ける。そのことで，一人一人の書く力を身に付けさせるとともに，自分が成長できたという実感を持たせる。また，自分の考えの変化や他者との関わりについて振り返ることができるワークシート等の作成を行う。

(3)　生徒の活動の様子やワークシート等の分析

以上のことを通して，指導の工夫を行い，その有効性を考察するとともに，そこで得た成果や課題を以後の授業実践に生かしていくこととする。

3　研究の実際

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

○与えられた課題に熱心に取り組み，自分なりの考えを持つことができる生徒が多い。

○話合いに意欲的に参加しており，友達の発表に対して真剣に耳を傾けることのできる生徒が多い。

○自分なりの考えを問う発問に対して，ワークシートなどに自分の考えを書くことはほとんどの生徒ができているが，常に進んで発表することができる生徒は学級（40人）の25%程度である。

○「国語の授業において自分なりの考えを書くことが好きだ」と答えた生徒は88%程度であるが，

それが得意だと答えた生徒は45%である。

○国語の授業で自分なりの考えが発表しづらい理由に「自分の考えた内容が人と違っていないか不安」「自分の考えが合っている自信がない」「思ったことをうまく整理したり表現したりできない」などが挙がった。

○国語の授業の話合いや友達の考えにより，自分の考えが広げられたり深められたりしていると感じると答えた生徒は95%である。

自分なりの考えを書くことを好意的に捉えている反面，自分なりの考えを書くことについては，他者の意見と違うことに不安を感じたり，思ったことが言葉にならないもどかしさを感じたりしている生徒がいた。ただし，他者との関わりから自分の考えを深めることについてはほとんどの生徒がその必要性を認めていた。まず自分なりの考えを表現できる場を設定し，お互いが意見を出し合うことにより考えが深まったり自分の表現が良くなったと実感できたりする機会を持つことが必要であると考える。

(2) 単元構想

単元「芭蕉の旅に対する思いにせまろう」を６時間扱いとし，単元目標，指導計画を**表１，２**のように考えた。

表１　単元「芭蕉の旅に対する思いにせまろう」の単元目標

観　点	目　標
関心・意欲・態度	交流活動を進んで行い，自分の考えを広げたり深めたりしようとする。
書くこと	書いた文章を互いに読み合い，表現の仕方などについて評価し，自分の表現に役立てるとともに，ものの見方や考え方を深めることができる。
読むこと	文章を読んで人間や自然について自分の意見を持ち，考えを深めることができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	歴史的背景などに注意して古典を読み，その世界に親しむことができる。

表２　単元「芭蕉の旅に対する思いにせまろう」の指導計画

時	学　習　内　容	◇　評　価　規　準（観　点）
1	学習の見通しを持とう。 ○学習内容と単元を通しての目標を確認する。 ○自分が旅について考えたことを発表し，芭蕉と俳諧について知る。	◇旅について自分の考えを進んで発表している。（関心・意欲・態度）
2	芭蕉の旅に対する思いについて自分の考えを書こう。 ○芭蕉がなぜ旅に出たいと考えたのか冒頭の文章を基に考える。	◇芭蕉が旅に出た理由について，冒頭の文章から自分の意見を持っている。（読むこと）
3	○芭蕉の旅に対する思いを，四つの文章（「殺生石・遊行柳」「白河の関」「松島」「平泉」）を基に読み取る。※４人班で読み取る文章を分担する。	◇書いた文章をお互いに読み合い，進んで意見を述べたり助言したりしている。（関心・意欲・態度） ◇文章を読んで，芭蕉の旅に対する思いについて自分の意見を持っている。（読むこと）

	○同じ文章を担当した者同士で意見交換を行う。	
4	○読み取った内容を班で確認し，芭蕉の旅に対する思いについて短い言葉でまとめる。 ○書いた文章について，班で交流する。	◇書いた文章をお互いに評価し，自分の考えを広げようとしている。(関心・意欲・態度) ◇書いた文章を互いに読み合い，表現の仕方などについて評価し，自分の表現に役立てる。(書くこと)
5	○文章を読み返し，交流したことを基に芭蕉の旅に対する思いについて800字で書く。	◇相手の助言から自分の表現をより良いものにするとともに，考えを広げている。(書くこと) ◇文章を読んで，芭蕉の旅や自然に対する思いについて自分の意見を持っている。(読むこと)
6	芭蕉の旅に対する思いについて考えを深めよう。 ○芭蕉の旅に対する思いについて書かれた友人の文章を読み，自分の考えを書く。	◇相手が書いた文章から自分の考えを広げようとしている。(関心・意欲・態度) ◇文章を読んで，芭蕉の旅や自然に対する思いについて自分の考えを深めている。(読むこと) ◇芭蕉の旅に対する思いを踏まえながら「おくのほそ道」を読み返している。(伝統的な言語文化)

本単元では「松尾芭蕉の旅に対する思いにせまろう」というテーマで学習を行う。教材「おくのほそ道」は江戸時代に松尾芭蕉が書いた紀行文で，西行法師などの文人の足跡や歌枕（和歌がうたわれた名所旧跡）を訪ねた旅の記録であるが，時には創作を交えながら，関わった自然や人，歴史に寄せる芭蕉の思いが描かれた文学的作品である。生徒が文章を繰り返し読むことによって古典特有のリズムや文体的特徴をとらえるとともに，ものの見方や考え方を深めることができる教材である。また，多くの生徒が楽しみにしている修学旅行が間近にせまっているこの時期（6月）に，自分たちが思っている旅と芭蕉が考えている旅の違いを比較することを学習に取り入れることで，興味を持って学習に臨ませることができると考える。

まず，芭蕉の旅に対する思いを「おくのほそ道」から読み取り，文章に表すという学習の目当てを持たせる。そして，それを達成するために幾つかの文章を小集団の中で役割分担して読み取らせ，その内容を共有しながら芭蕉の旅に対する思いについて書かせる。それにより人間や自然について自分の意見を持たせるようにしたい。また，書いた文章を生徒同士で相互評価させることで，自分の表現をより良いものにしたり表現の良さに気付かせたりするとともに，ものの見方や考え方を深めさせることにつなげたい。

(3) 授業の実際

ア　第1時

学習内容と単元を通しての目標を確認するとともに，旅から連想できることについて発表させた。その後，芭蕉と「おくのほそ道」について大まかに説明した。

イ　第2時

冒頭の文章を，歴史的仮名遣いに注意させながら読ませた後，芭蕉がなぜ旅に出たいと考えたのか，冒頭の文章の記述を根拠にして考えさせた。

ウ　第3時

まず，芭蕉の旅に対する思いを，冒頭とは別の四つの文章（「殺生石・遊行柳」「白河の関」「松島」「平泉」の現代語訳，学研「絵で見る楽しい古典」参考）を基に読み取らせ，ワークシートに記入させた。考えの根拠となる部分には傍線を引かせるようにした。また，芭蕉の旅に対する

思いを読み取るための手助けになるように，それぞれの文章に関する課題を設定した。（図１）その際，４人班の班員それぞれが異なる文章を担当することとした。ちなみに，四つの文章の選定理由は，冒頭の文章に登場する場所である点，芭蕉の旅に対する思い（西行などの先人や歌枕への憧れ，源平の戦いにまつわる人物への思い）が端的に表されている点である。後半では，違う班の同じ文章を担当している者同士（５人グループ）で交流を行い，お互いの考えについて見直しをさせた。

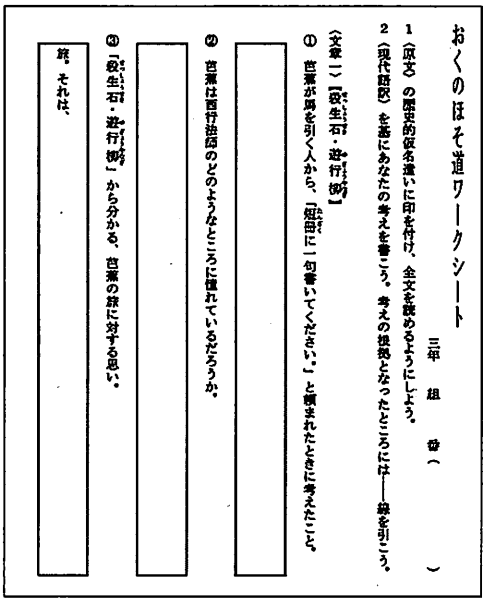


図１　第３時で使用したワークシート
芭蕉の旅に対する思いにたどりつくための課題（①，②）と芭蕉の旅に対する思い（③）を書かせる形になっている。

エ　第４時

分担して読み取った，芭蕉の旅に対する思いを班の中で確認し考えを広げさせた後，次の時間に文章でまとめるために，要点や書き出し，具体例などを短い言葉でまとめさせた。既に考えがまとまっている者については実際に書く文章の下書きを書かせた。その後，書いた文章について，班で交流させた。その際，お互いが書いたものについて，二色の付箋を使って良いところ（青）やアドバイス（緑）を書かせ，その後，書いた付箋を基に話合いを行わせた。さらに，自分が書いた内容について見直しや加筆をさせた。次に挙げるのは第４時の授業の主題，ねらい，展開である。

①　主題　芭蕉の旅に対する思いについて自分の考えを書こう

②　ねらい

○書いた文章をお互いに読み合い，進んで意見を述べたり助言をしたりすることができる。
○相手の助言から自分の表現をより良いものにするとともに，考えを広げることができる。

③　展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　•予想される生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　本時の学習の目当てを確認する。（一斉）	5	○班で協力しながら自分の考えを書くことで，芭蕉の旅に対する思いにせまろう。	○小集団で積極的に話合いが行えるように学習の目当てを明示した。
2　役割分担をして読み取った芭蕉の旅に対する思いを班で確認する。 **【協働】** （小集団） ↓ （一斉）	10	○芭蕉にとっての旅とはどんなものか，分担して調べたことを報告し合おう。 • 旅，それは，昔から見たかったものを見るものである。 • 自然を見て新たな自分を見つけるものである。 • 古人が旅した場所に時間をかけて訪れるものだろう。 • その地で詠まれた歌と風景を味わうものだろう。	**○役割分担をして読み取ったことを班員に知らせることで，芭蕉の旅に対する思いにせまる手助けとした。【協働】**
3　芭蕉の旅に対する思いについて考えをまとめる。 (1)　班で確認した芭蕉の旅に対する思いを基に，自分の考えを書く。（個人）	25 (5)	芭蕉の旅に対する思いについて自分の考えを書こう。 • 「芭蕉の旅に対する思い。それは旅で訪れた地の情景を味わい，古人の思いを感じることだと考える。「松島」では言葉にできないほどの美しい景色を見ている。	○ワークシートに表現の型を示すことで，考えを表現しやすくさせた。また，最初から自分なりの表現ができる者のために，自由に書ける欄を設けておいた。

		また，「平泉」では……。	
(2) 書いた内容を交流する。 【協同】 (小集団) ↓ (全体)		○書いた内容についてみんなで交流しよう。 ・「訪れた地の情景を味わう」という表現が端的でいいね。 ・昔の人への思いをさらに具体的に書くといいと思う。	**○自分の考えをより良いものにするために小集団で交流させた。その際，付箋を活用させた。【協同】** ◇付箋を使いながら相手への助言などを積極的に行っている。 (観察・ワークシートの記述分析)
(3) 交流したことを基に自分の表現を見直す。 (個人)	(5)	○自分の表現を見直そう。 ・「訪れた地の情景を味わう」という表現はそのままで大丈夫のようだ。 ・友達の付箋にあるように「松島」以外の内容も取り入れてみよう。	◇相手の助言を基に自分の表現を見直している。 (観察・ワークシートの記述分析)
4 本時のまとめと次時の活動内容の確認を行う。 (個人) ↓ (一斉)	10	○交流した成果を振り返ろう。 ・交流によって自分の考えが広がった。 ○今日の活動を基に次の時間に意見文を書こう。 ・次の時間は自信を持って意見文が書けそうだ。	○本時の振り返りをワークシートに記述させることで，交流を行ったことによる成果を確認させた。
授業研究の視点	○「班で協力して芭蕉の旅に対する思いにせまる」という学習の目当てを設定し，付箋を使いながら話合いを行わせたことは，進んで意見を述べたり助言し合ったりすることにつながったか。 ○交流する活動を取り入れたことは，より良い表現やお互いの良さを発見させ自己の肯定感を高めることにつながったか。		

オ　第５時

前時に交流したことを踏まえて四つの文章を読み返させた後，芭蕉の旅に対する思いについて600字から800字で書かせた。

カ　第６時

前時に書いた文章をお互いに読み合い，お互いの考えを発表させたり，授業の感想を書かせたりした。

４　考察

まず，生徒が第４時に記入したワークシートと第５時の活動で書いた意見文から本時のねらいが達成できたか考察する。例として，２名の生徒それぞれのワークシートを掲載する。

図２・３のように，他者から表現や内容について良いところの付箋とアドバイスの付箋の両方をもらった生徒が６割であった。残り４割の生徒は良いところの付箋のみもらっていた。アドバイスの付箋を受け取った生徒は，その後自分の表現に手を加え，それを意見文に生かすことができた生徒がほとんどであった。また，授業を行った生徒全員がワークシートの内容を踏まえて書くことができた。

また，すべての生徒が最初に担当した文章を読んだ際の考えから変化したことが分かった。その内容は単に班員の意見をそのまま書き写したものではなく，具体的な根拠を見つけながら再構築した考えであることが第５時に書かれた意見文から見て取れた。また，その内容は，第２時で，芭蕉がなぜ旅に出たいのかを考えたときのようなテキスト（冒頭の文章）の情報を直接取り出したようなものから，作品全体を貫くような抽象的なもの，あるいは現在を生きる私たちにも通じる普遍的なものに変化する傾向があった。それも，文章中の表現を根拠とした内容であった。

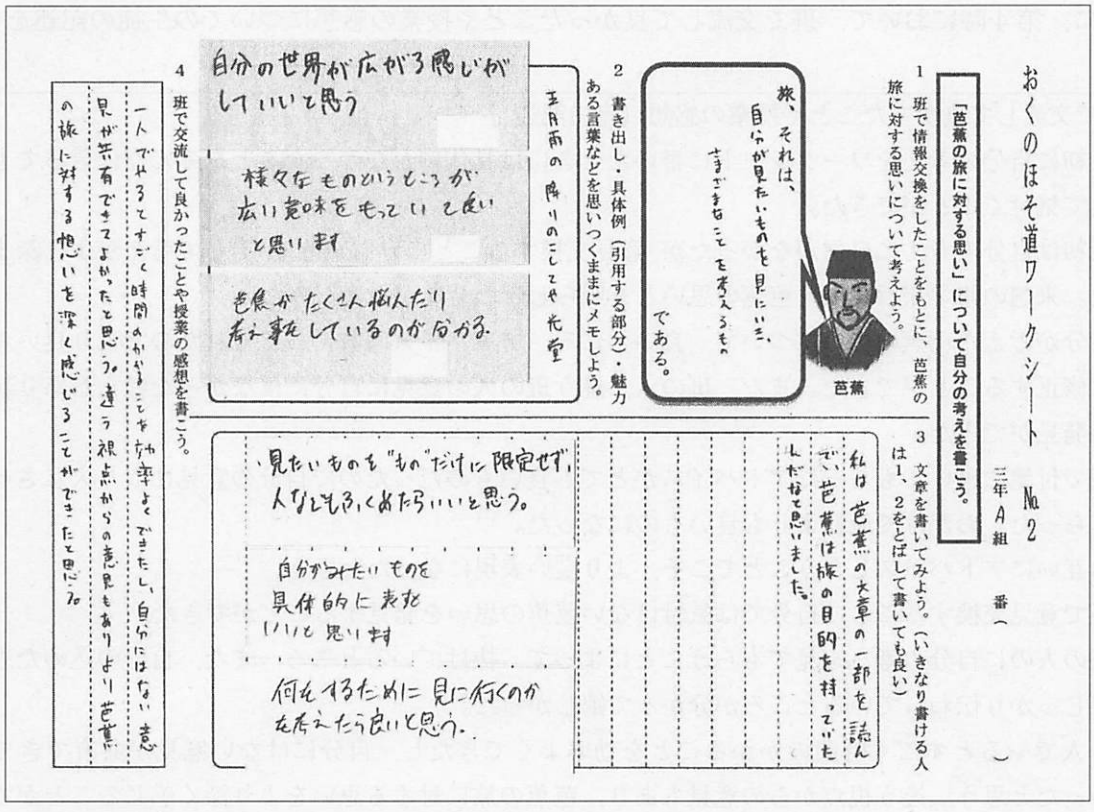


図２　第４時で使用したワークシート

上側の三つの付箋は，ワークシートの記述に対して班員が良いと思ったこと，下側の三つの付箋はアドバイスをそれぞれ書いたものである。

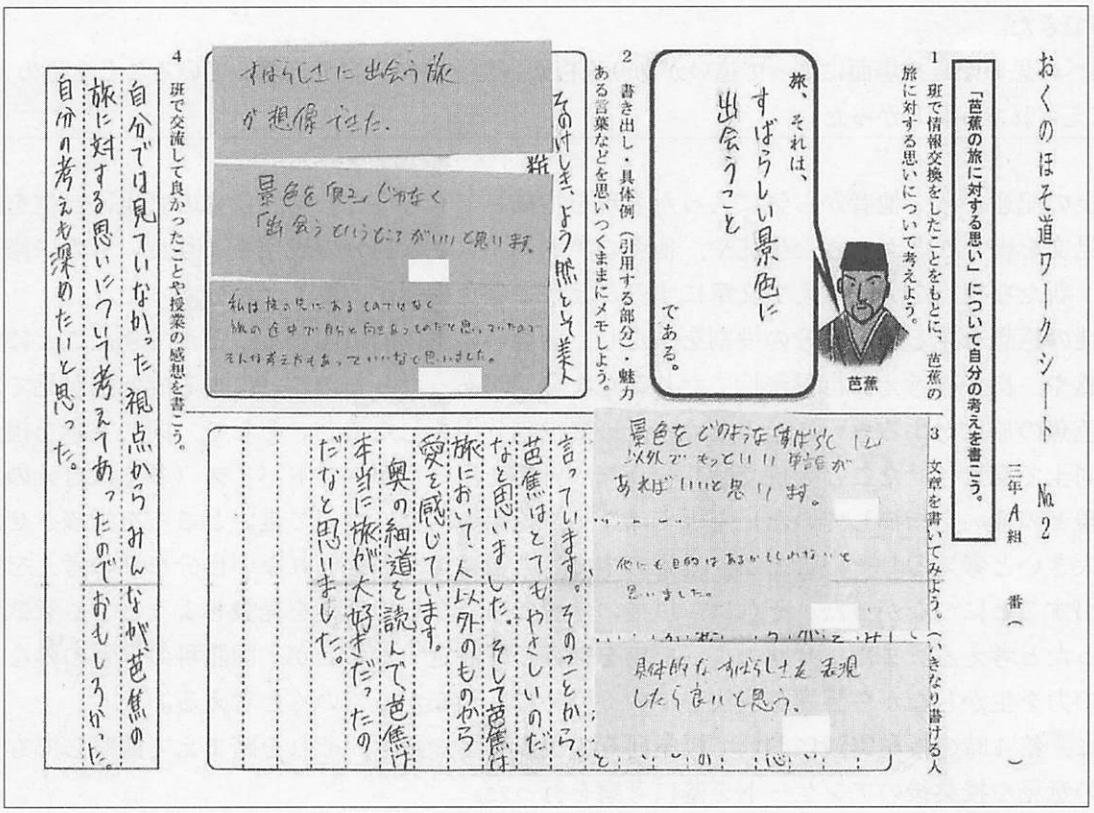


図３　第４時で使用したワークシート

上側の三つの付箋は，ワークシートの記述に対して班員が良いと思ったこと，右下の三つの付箋はアドバイスをそれぞれ書いたものである。

次に，第４時において，班で交流して良かったことや授業の感想についての生徒の記述を挙げる。

【班で交流して良かったことや授業の感想（自由記述）】
○最初に自分の考えをワークシートに書いたときには具体例がなかったことをみんなに言ってもらえて気付くことができた。
○最初は自分の考えに自信がなかったが，意見交換することで自信が持て，そして考えがより深まった。来週の修学旅行では，芭蕉の思いとも照らし合わせながら楽しみたい。
○自分が考えた芭蕉の思いについて，良いところ，アドバイス両方言ってくれたのでより良い考えに修正することができた。また，班の人，違う班の人の意見に自分にはなかった考えがあり新しい発見ができた。
○班で付箋に書いてもらったアドバイスがとても良いものだったので自分の意見に取り入れさせてもらった。おかげで最初よりも良いものになった。
○お互いにアドバイスし合うことでこそ，より良い表現になったと思う。
○班で意見交換することで自分では気付けない芭蕉の思いを発見することができた。
○班の人のに自分の考えを見てもらうことによって，抜けているところ，また，自分の込めた思いがしっかり伝わっているところが分かって嬉しかった。
○一人でやるとすごく時間のかかることを効率よくできたし，自分にはない意見が共有できて良かったと思う。違う視点からの意見もあり，芭蕉の旅に対する思いをより深く感じることができた。
○いろいろな人の意見から多様な視点を得ることができた。自分では分からないことを聞くことができて，より考えを深めることができた。
○旅の場所が違うと旅に対する思いもいろいろな角度から見られて，より芭蕉の思いに近づくことができた。
○旅への思いが人や場面によって違いがあり面白かった。また，自分の思っていることを班の人に伝えられてうれしかった。

以上の記述から，他者から気に入った表現を指摘してもらうことで，自分の表現に自信を持って意見文を書くことができた生徒や，他者のアドバイスから自分の表現をより良いものに修正したり，新たな視点を付け加えて文章にすることができた生徒がいることが分かった。

生徒の感想を見ると，自分の役割を果たし，話合いに主体的に関わることができたことによる達成感や，自分の考えに自信が持てたり新たな発見があったりしたことによる成就感が見て取れた。芭蕉の旅に対する思いに迫るために，班で役割分担をしたこと。そして，同じ文章を担当した者同士で交流させたこと。班で話し合う際，付箋を用いたが，アドバイス（多くは自分の考えや表現との違いを指摘していた）だけではなく，相手の内容について良いところを指摘させたことが大きいと考える。そのことが，授業の中で，人とは違うかもしれない自分なりの考えを積極的に出すことにつながった。それは，以後の学習で自分なりの考えを発表しようとする意欲につながったと考える。また，今回のような場を継続して設定することが，国語科の学習のみならず自分の力を生かしながら課題を解決していく姿勢にもつながっていくと考える。

次に，第４時の授業実践において授業研究の視点を２つ設け，それを踏まえて観察してもらった方の意見や授業後のアンケートを基に考察を行った。

【授業研究の視点１】「班で協力して芭蕉の旅に対する思いにせまる」という学習の目当てを設定し，付箋を使いながら話合いを行わせたことは，進んで意見を述べたり助言し合ったりすることにつながったか。

○付箋を用いて話合いを行わせることで，互いの表現に対する意見・考えを一人一人に考えさせることができ，また，その考えを記録として残すことができていた。
○付箋を使うことで話合いの効率が良くなり，また，何について話し合っているのかが見えやすくなっていた。
○書くことが苦手な生徒にとっては少しのアドバイスでも書きやすくなると思う。
○付箋を貼る活動をする際，前の人が付箋を貼ったワークシートをもらった後に自分の考えを書き，付箋を貼っていくので，前の人の考えの補足や賛同する内容になりやすく，話合いに違う視点が生まれにくくなった可能性がある。
○アドバイスの付箋が貼られていない生徒がいたので，それをどうしていくかが課題になる。
○「旅，それは……」の部分以外の所の記述が書けていることで，交流がより深まると思う。

【授業研究の視点２】 交流する活動を取り入れたことは，より良い表現やお互いの良さを発見させ自己の肯定感を高めることにつながったか。

○良いところの付箋が全員のワークシートに貼られており，自己肯定感につながったのではないか。
○良いところの付箋があるのを確認して嬉しそうにしている様子が見られた。
○交流活動を取り入れたことで，芭蕉の思いにせまる読み取りや表現ができていることを自分でも実感でき，他者にも認められる。それが肯定感が高まることにつながっている。
○まねをされる，褒められる，人に刺激を与える・与えられる，人を変えることができる体験ができる活動であり，肯定感が高まる活動と言える。
○交流する際に前回のワークシートも使えると，自分が調べたことが生かされている実感がさらに感じられるのではないか。
○良さを発見することも大事だが，困っていることをお互いに出し合えることも大事なのではないかと感じた。

「良いところ（青）」「アドバイス（緑）」２色の付箋を交流する際に活用することで，自分の表現の幅を広げ，自分の表現に自信を持って意見文を書く活動に臨むことができるようになったことがここでも言える。お互いに青色の付箋（気に入った表現）を使うことにより，相手を認める意識を持ったり，あるいは相手に認めてもらうことで自己肯定感を持ったりすることができた。しかし，より良い表現に結びつけるためには，基になる自分の考えをより多く書ける状態にしておく必要があることや，良いところやアドバイスを考える活動と付箋を貼る活動の順序など，付箋の活用のさせ方やより多くのアドバイスを生徒から出させる方法について課題があることが分かった。

以上のことをまとめると，次のことが言えるのではないか。

○「芭蕉の旅に対する思いにせまる」という目的を果たすために小集団で力を合わせながら自分を活かす協同の場や，お互いの良さを認め合い，アドバイスを出しながら他者と交流できる場を設定することで，より良い表現にしていこうとする意欲を持たせることができた。また，内容についても多角的な視点や具体的な根拠を踏まえた表現，単なるテキストからの抜き出しではない自分なりの考えを踏まえた表現にすることができた。
○相手の記述について「良いところ（青）」「アドバイス（緑）」２色の付箋を交流する際に活用することで，話合いを効率よく進めたり，自分の考えを広げたり，自分の考えを客観的に見つめ直したり，あるいは自分の考えに自信を持って次の活動に臨んだりすることができた。
○付箋を使うに至るまでの活動のさせ方やワークシートの扱い方，また，交流する際のワークシートの扱い方には課題が残る。

研究（その３）

他者と関わり合う言語活動を通した表現力を高める学習指導の工夫（音声言語を中心に）

（実践者）武田　香織

１　研究テーマ設定の理由

「持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす生徒」を育成するために，まず「自らを活かす」とは，自分の可能性を信じ，個や集団の目標達成のために行動できる力を持つことであると捉えた。そのために必要なのは多様な場において他者と関わることができる力を支える表現力である。仲間との関わり合いの場の設定をより工夫し，お互いに認め合うことを通して考え方を広げ，表現力を高めることによって「すべての生徒が伸びる学び」に迫ることができるのではないかと考えた。

表現力を高めるためには生徒が目的意識を持つこと，よりよい表現をしたいと思う場の設定の工夫が必要である。目的意識を持って仲間と関わり合う中で，よりよい表現を求める場を作りたいと考え，本研究テーマを設定した。

２　研究内容と方法

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

(2)　仲間との関わり合いの中で表現力を高める学習指導の工夫

小集団の中で生徒それぞれが自分の役割を果たしながら，互いに学び合い，高め合うことができる単元構成を工夫する。また，他者の意見を聞くことで自分の考えが深めることができるような授業展開を模索する。

(3)　生徒の活動の様子やワークシート等の分析

学び合い，他者に意見を聞くことによって考えが深まったことが実感できるワークシートの工夫を行う。

以上のことを通して，指導の工夫を行い，その有効性を考察するとともに，そこで得た成果や課題をさらに授業実践に生かしていくこととする。

３　研究の実際

(1)　事前アンケート等による生徒の実態把握

生徒（40名）は，明朗快活な生徒が多く，個性的な他者を受け入れる雰囲気をもっている。しかし国語科の学習そのものに苦手意識を抱いている生徒が少なからずおり，授業中の挙手には遠慮が見られる。事前のアンケート調査では，班やグループでの話合い活動を「楽しい」と答えた生徒が30名，「まあ楽しい」と答えた生徒が９名と，ほとんどの生徒が小集団での話合い活動を楽しんでいるのに対して，学級全体での発表になると「堂々と発表できる」「まあできる」と答えた生徒は22名に減少する。「討論会が好きです」と書いた生徒は多数おり，手応えを感じている生徒が多くいることも分かった。そこで，小集団での活動を取り入れた討論形式の授業を通して自分たちの意見を交換させ，「否定」ではない建設的な話合いを目指したいと考えた。

(2)　単元構想

本単元「パネルディスカッションをしよう」では調べたことを基に討論を行い，さらに考えを深めたり広げたりすることをねらいとした。

パネルディスカッションでは目的に応じて本や文章を選び，必要な情報を得て，自分の考えをまとめること，またその情報を活用して異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ，論理的な構成や展開を考えて話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げることができると考え，表１，２のように単元を構想した。

表１　単元目標

観　点	目　標
関心・意欲・態度	目的や意図に応じ，内容や表現の仕方に注意して文章を読み，知識や体験と関連付けて自分の考えを持とうとしている。 目的や場面に応じ，立場や考えの違いを踏まえて話したり，考えを比べながら聞いたり，相手の立場を尊重して話し合ったりしようとしている。
話すこと・聞くこと	異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ，話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し，論理的な構成や展開を考えて話すことができる。 相手の立場や考えを尊重し，目的に沿って話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げることができる。
読むこと	目的に応じて本を選び，必要な情報を読み取ることができる。 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て，自分の考えをまとめることができる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	相手に分かりやすい説明をするために，文や文章の構成などについて工夫することができる。

表２　指導計画（全14時間）

次	学　習　内　容	◇　評　価　規　準　（観　点）	時間
1	「モアイは語る－地球の未来」 ○筆者の主張を読み取り，人類の未来について自分の考えを持つ。	◇筆者の主張を読み取り，それに対しての自分の考えを持とうとしている。（関心・意欲・態度）	2
2	「日本語メガネのかけかえ」 ○筆者の思いを読み取り，言語やものの見方について自分の考えを持つ。	◇筆者の主張を読み取り，それに対しての自分の考えを持とうとしている。（関心・意欲・態度）	2
3	パネルディスカッションをしよう ○パネルディスカッションについて知る。 ○テーマを選び，班を構成する。 ○自分の考えを整理する。	◇説明に対する聞き手の意見や質問を予想して，話の中心と付加的な部分との関係に注意し，分かりやすい構成や展開を考えている。（話すこと・聞くこと）	1.5
	○他の資料を読み，考えを広げたり深めたりする。 ○班で主張をまとめ，効果的な伝え方を考える。	◇目的に応じて本や文章を読み，適切な情報を得て，意見をまとめている。（読むこと） ◇話したり話し合ったりするための材料を集め，整理している。（話すこと・聞くこと）	3.5
	○パネルディスカッションの準備をする。 ・資料を作成する。 ・班でリハーサルをする。 ・手直しをする。 ・ディスカッションの進め方を整理する。	◇小集団における活動で進んで他者に関わろうとしている。（関心・意欲・態度） ◇異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ，論理的な構成や展開を考えて話す準備をしている。（話すこと・聞くこと）	2

	○パネルディスカッションをする。 ・意見を述べ，聞き合うことによって考えを深める。 ○振り返る。 ・主張の内容，話し方について ・コーディネーターの進行について	◇考えを比べながら聞いたり，相手の立場を尊重して話し合ったりしようとしている。(関心・意欲・態度) ◇目的に沿って話し合い，他者の発言を自分の考えと比較して聞き，自分の考えを広げている。(話すこと・聞くこと) ◇分かりやすい説明をするために，話の形態や展開に違いがあることを理解して工夫している。(言語事項) ◇自分自身や他者の発表について振り返り，そのよさや課題を確認している。(話すこと・聞くこと)	3

本単元では，説明文を読んだ後，「外国人に伝えたい日本文化」「人類の未来を守るために」という２つのテーマでパネルディスカッションを行った。教科書で述べられていることを基に，班で協力して幅広い資料から自分たちの主張に合うものを見つけ出して読み，根拠を明確に示しながら意見をまとめた。話合いの目的はテーマについて考えを広げ深めることであるので，自分たちの意見に固執することなく，また，意見を大きく否定し合うことなく話合いができると考えた。

資料とする本は，地域の図書館の協力を得て129冊を準備し，それぞれの主張をある程度は支えられるようにした。パネルディスカッションのために資料を選び，話合いを深め，精選する段階，パネルディスカッションを行い，互いの意見を聞きながら考えを広げたり深めたりする段階，振り返りによって，話合いの深まりや方法を客観的に捉え直し，学びとする段階，の３つの段階を通して生徒を互いに関わり合わせ，他者を尊重する心を持ち，ともに学び合い，高め合おうとする生徒を育てたいと考えた。

(3) 授業の実際（13／14時間）

ア　主題

考えを分かりやすく伝え合おう－パネルディスカッションをしよう－

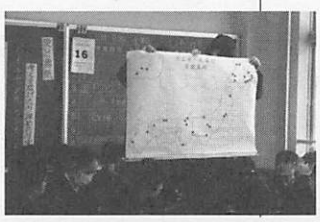
イ　ねらい

○自分の考えと比較しながら相手の話を聞き，目的に沿って話し合い，互いの発言を検討して自分の考えを広げることができる。

○話合いを通して自分たちの発表を客観的に振り返り，よりよい討論の在り方に気付くことができる。

ウ　展開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・予想される生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　前時までの学習を振り返り，パネルディスカッションについて確認する。(一斉)	5	○パネルディスカッションを充実したものにするためには，どうしたらいいだろう。 ・意見の根拠を明確に述べる。 ・自分の意見を持って話を聞き，話合いに積極的に参加する。	○目標を持って取り組ませるために，前時までの学習を思い出させた。
2　パネルディスカッションをする。　(全体) **【協働】**	30	パネルディスカッションをしよう２ テーマ「人類の未来を守るために －わたしたちができること－」	○考えの変化を可視化するために，ワークシートにメモさせた。

(1)コーディネーターから (2)パネリストの主張 (3)質疑応答 (4)フロアから (5)パネリストによるまとめ (6)コーディネーターから  意見発表をする様子		○では，今日のパネルディスカッションをしよう。 立場１：食糧問題から考える 立場２：資源の問題から考える 立場３：自然保護から考える 立場４：地球温暖化から考える	◇目的に沿って話し合い，他者の発言を自分の考えと比較して聞き，自分の考えを広げている。（観察・ワークシートの分析） ○全体の流れを見ながら支援するために，教師はポジションを固定しない。
3　パネルディスカッションを振り返る。 （小集団→全体） **【協働】**	10	○今日のディスカッションを振り返って，気付いたこと，よかったことやその理由を話し合おう。 • フロアの人が的確な質問をしてくれたので，自分たちの考えていなかったポイントに気付けた。 • コーディネーターがパネリストの意見をうまくまとめてくれたので意見が言いやすかった。 • ○○さんの意見は分かりやすかった。	**○論点を明確にするために，生徒の気付きを主張の内容についてのものと話合いの表現方法についてのものに分類させた。【協働】** ◇話合いを客観的に振り返り，よりよい討論の在り方に気付いている。（ワークシートの分析）
4　本時のまとめを行う。（個人）	5	○今日の授業について振り返ろう。 • 考えたり，自分の意見と比べたりしながら聞くことが大事だと思った。 • 相手のことを考えて話したい。	○自分たちの気付きを整理し，次の学習への意欲を高めるために，今日の授業の成果を振り返らせた。

4　考察

(1)　授業研究の視点について

○目的を明確にして協力して活動させるとともに，ワークシートを用いて考えの変化を可視化させることは，考えの広がりや深まりを実感させるのに効果的であったか。
○振り返りにおいて生徒の気付きを表現内容と表現方法に分類させることは，話合いを自分たちで客観的に捉え，よりよい表現の仕方に気付かせるために有効な手段であったか。

研究授業を見ていただいた先生方の意見を以下に整理して挙げる。

○生徒がよく協力し合っていた。調べる段階でも協力していたことがよく分かる。
○発表の仕方に工夫があった。あえて最初の主張では説明せず，余白を残しておくなどのテクニックも見られた。
○質問をよくしていた。メモと自分で調べた効果か。

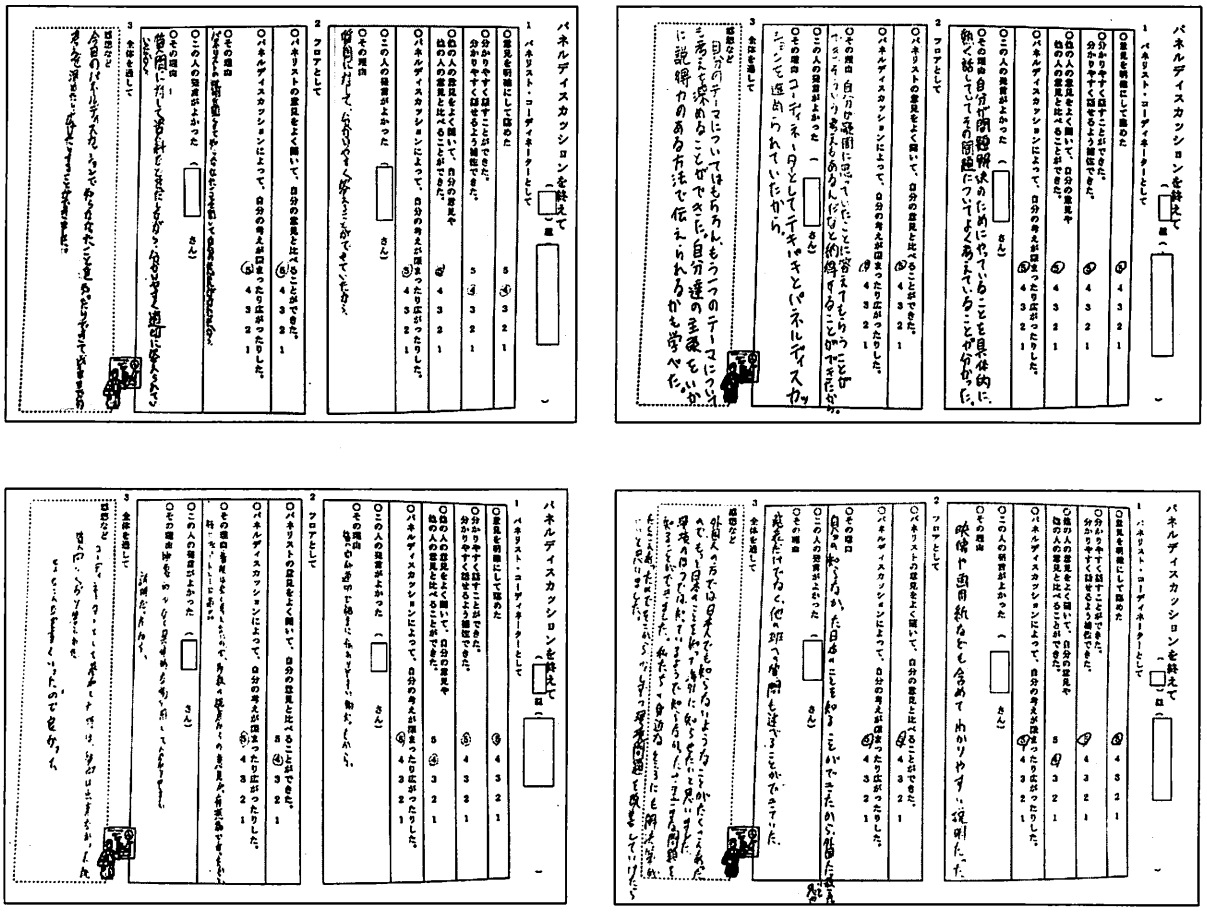
○フロアからの質問に対するパネリストの返答をメモする生徒が最初少なかったが，ディスカッションが進むにつれ増加した。しかし，全ての生徒に効果があったとは言えなさそうだ。
○考えの可視化の手段の一つとして，コーディネーター役の一人が話し合いをボードにまとめていくのもあるのではないか。

(2) 生徒の活動の様子やワークシート等の分析と今後の課題

この授業の後，生徒は「パネリスト・コーディネーターとして」「フロアとして」の二つの視点から振り返りを行った。

生徒の感想を以下に挙げる。

○パネルディスカッションは，自分の意見を述べるだけでなく他人の意見を取り入れなければ成り立たないことがよく分かった。
○今回のパネルディスカッションでは自分の意見を深めたり，疑問に思っていたことを解消することができたりしました。また，調べ物をするとき，とても楽しかったです。またパネルディスカッションがあったらフロアに分かりやすい資料を作りたいです。
○第三者としての視点で考えるのがおもしろかったです。フロアの人がいい質問をしてくれたので，個人的に分からなかったこともよく分かりました。自分としての意見は違ったものも，発表を聞くと「こういうものもあるんだ」とわかりました。（コーディネーター）
○様々な意見が飛び出してきてびっくりしました。考えも深まり，また視野も広くなりました。
○自分のテーマについてはもちろん，もう一つのテーマについても考えを深めることができた。自分たちの主張をいかに説得力ある方法で伝えられるかも学んだ。



生徒のワークシート

本研究では，①パネルディスカッションのために資料を選び，話合いを深め，精選する段階，②パネルディスカッションを行い，互いの意見を聞きながら考えを広げたり深めたりする段階，③振り返りによって，話合いの深まりや方法を客観的に捉え直し，学びとする段階，の３つの段階を通して生徒を互いに関わり合わせ，他者を尊重する心を持ち，ともに学び合い，高め合おうとする生徒を育てたいと考えてきた。

①の段階は小集団であり，生徒たちは今まで通り意見を活発に交わし，話し合いを深めたり，資料を作成したりすることができた。②では，感想にもあるとおり，様々な意見を聞き，分からないところは質問をしながら考えを広げたり深めたりすることができたと考える。多くの生徒はパネルディスカッションを「楽しかった」と捉えており，次回への意欲を高めていた。他者の意見を肯定的に受け入れ，ともに学び合う姿勢が見られた。③の段階は，振り返りによって発表や質問，応答のしかたのよかったところに気付き，学ぶことはできたと感じる。しかしながら，それぞれが十分に客観的に捉え直し，学ぶことができたかという点には改善の余地があると考えている。よりよい話合いの在り方についてより客観的に捉えさせる方法を今後も模索していきたい。

第３章　おわりに

研究（その１）では，自分の担当を決めさせ，小集団１・２といった異なるグループでの話合い活動をさせた上で，最後に物語の主人公に対する思いを書かせるといった活動を行った。この最後の書く活動のときには，二つの小集団活動を終え，主人公に対する思いをそれぞれが持つことができていたためか，ほとんどの生徒がすぐに書き始めることができた。また，この最後に書かせたワークシートを読むと，二つの小集団活動があったからこそ感じることができる思いを書けている生徒が多かった。しかし，授業を見ていただいた先生から，小集団１・２の活動では，自分の役割が明らかになって「やらなければ」「伝えなければ」といった思いは強くなるが，それがうまく伝わらなければ自己有用感を高めることにはつながらないのではないかといった指摘があった。今後も今回の課題を踏まえた実践をしていきたい。

研究（その２）では，文章を読み取る際，単元に書く活動を適切に位置付けるとともに，授業において相互評価や交流といった小集団活動を効果的に取り入れた。自分が担当した文章から導き出した芭蕉の旅に対する思いを，同じ文章を担当した者同士で交流させ，さらに，違う文章を担当した班員との交流をさせることを通して自分の考えを広げさせ，より良い表現にしていこうとする意欲を持たせることができた。特に，付箋を使って相手の記述の良いところやアドバイスを挙げさせ相互評価を行わせたことにより，自分の考えに自信を持たせたり，違う視点で考えさせたりすることができた。それにより，書く力の差にかかわらず，生徒が「より良い表現ができるようになった」「成長できた」と思えるようになった。付箋を使うまでの活動のさせ方やワークシートの扱い方，また，交流する際のワークシートの利用のさせ方などについてさらに工夫し，表現力を担う一人一人の書く力を今後も高めていきたい。

研究（その３）では，パネルディスカッションを行う過程で，資料を選び，話合いを深め，精選する段階，互いの意見を聞きながら考えを広げたり深めたりする段階，振り返りによって，話合いの深まりや方法を客観的に捉え直し，学びとする段階，の３つの段階を通して生徒を互いに関わり合わせる活動を行った。それぞれの段階で，生徒はよく他者と関わり，自分の考えを広げたり深めたりすることができた。多くの生徒はそれを実感し，学びを楽しむことができた。しかし，それぞれが十分に表現の良さや工夫を客観的に捉え直し，学びとすることができたかという点には，改善の余地がある。よりよい話合いの在り方について客観的に捉えさせる方法を今後も模索していきたい。